



ダンゴムシはどうして丸くなるの

かたいこうらが、たくさんの節に分かれている

ダンゴムシは、全身が、かたいこうらでつつまれています。このこうらが、細かい節に分かれています。この節どうしが、トラクターなどのキャタピラのように、1つずつはなれていて、節と節の間は、うすい皮でつながっているだけです。そのため、節どうしのつなぎめが、内側に引ばられると、体は丸くなります。

丸くなると身を守れる

ダンゴムシは、触角やしっぽ、目やどう体の、両側のあたりなどをさわられたときや、急に強い光をあてられたとき、ぱっと、体を丸めてしまいます。丸くなると、大切な頭やおの部分、おなかの内側部分などが、かたいこうらの中に、とじこめられたような形になり、敵が攻撃しようとしても、できなくなります。身を守るために、丸くなるのですね。強い日が照りつける夏とか、空気が乾燥した寒い冬なども、ダンゴムシは体を丸め、落ち葉の下や石のかけなどに、じっとしています。湿った所でくらすダンゴムシは、体が乾燥してしまうとこまるので、水気をにがさないように、丸くなるのかもしれない。

(監修・中山 周平)

